「観る」から「創る」へ進化を続ける

平成29年度から武蔵野美術大学との連携事業として6年間にわたって行われてきた「アート・ タウン・プロジェクト」。令和 4 年度でプロジェクトの主要事業だった「彫刻作品公開制作」が 終了します。町内には多くのパブリックアートが存在します。このプロジェクトが契機となり、 皆さんの生活風景としてなじんでいる多くのアート作品にご注目ください。

アート・タウン・プロジェクトが始まり、敷居が高いと感じていた「アート」が少しずつ身近 に感じていただけたのではないでしょうか。そのことはアート事業への参加者が少しずつ増えて きていることに表れています。



平成 28 年度

平成 28 年 10 月、レクリエーション公園に「関 **係空間**」が移設されたことを契機に「アート・ タウン・プロジェクト」は始動しました。訓子 府町に住んでいたことのある水本修二氏が武蔵 野美術大学を卒業し、講師として活動していた ことから「アート・タウン・プロジェクト」は 武蔵野美術大学と連携して進められています。

平成 29 年度





第1回目の彫刻作品公開制作で「くわ・く わ・くわ|(作者:山本麻璃絵)が制作され、 町公民館に設置されました。

町民の方からの積極的な提案により、レク リエーション公園駐車場で絵を描くキッズ **アート事業**も実施され、親子でアートを楽し みました。

平成30年度





第2作品目として「うんま」(作者:松尾 ほなみ) が公開制作され、レクリエーション 公園に設置されました。農耕馬をモチーフに テラコッタワークショップも開催。多くの方 の参加がありました。「旅するムサビ」では、 平成29年度に続いて黒板ジャックを実施し、 「観る」を楽しみました。

平成29年~令和4年度を振り返る

だんだんと広がるアートの輪がさらに大きな輪になるように、今後もアートプロジェクトの展 開が期待されています。

令和5年度からは住民のワークショップを中心として展開し、「アートなまち」をめざすプロ ジェクトとして、進められる予定です。

平成 31 年度(令和元年度)





令和2年度





レクリエーション公園には第3作目の彫刻 作品として「おきあがるもの」(作者: 李旭、 細川えみか) が設置されました。

「旅するムサビ」のワークショップでは「紙 コップアート でこども 園の 園児が町公民館に 不思議な世界を出現させました。紙コップアー トは、この後も公民館で取り組んでいます。

新型コロナウイルスの感染拡大により、振 り返りの年となりました。今まで得てきた技 法や発想で事業を実施しました。

町内講師によるテラコッタ体験や町民提案 から始まった **Tシャツアート**など、町内の力 でアートを楽しむことができました。

令和3年度





令和4年度





2年ぶりの公開制作では「HOMETOWN」(作 者:杉浦藍)が制作されました。多くの方が 応援に訪れてくれました。

子ども会と連携した**バス停アート**が始ま り、住民のパブリックアートへの参加が増え ました。バス停アートは訓子府高校の美術部 も協力してくれました。

最終作品となる「訓子府山」(作者:早川 祐太) が制作されました。この作品は町民の ワークショップで作品の原型を作り、「観る」 と「創る」が融合されました。

彫刻作品公開制作最終年ということで、こ れまでの制作者が勢ぞろい。作品をめぐるツ アーが作者の解説付きで実施されました。

広報 くんねっぷ 2023.2 広報 くんねっぷ 2023.2